**ヨハネによる福音書1章28節まで**

**【ヨハネによる福音書について】**

* 福音書とは？
* 他の福音書との関係性
	+ 他の福音書（　　　・　　　・　　　）が同じ内容や言葉遣いを含む「共観福音書」と呼ばれるのに対し、ヨハネによる福音書は独自の出来事や教えを多く含んでいる。ある意味福音書の中でも特別な存在。成立したのは4福音書の中で最後と言われている。
* 「ヨハネ」って誰？
* ヨハネによる福音書の目的
	+ 20：31（20章31節と読む）には目的として「あなたがたが、イエスは神の子メシアであると信じるためであり、また、信じてイエスの名により命を受けるためである。」と記されている。具体的には
		- イエスとはどういう人なのか？
		- イエスの名により受ける命とは？（神の賜物とは？）
		- イエスを信じて従うこととは？信仰とは？

ということについて主に記されている。

**【言が肉となった】（1～18節）**

まず、「神」「言」「命」「光」の関係性についてまとめてみよう。

* 「言＝神」？それとも「言≠神」？
* 「言」と「命」の関係性は？

・　「言」「命」「光」とはどういうものだと思う？また、図に関して、ここがおかしいのでは？などの意見があればお願いします。

「言」：いわゆる言葉ではない。神を表す言葉、神の意志を人間の言葉で表したもの。

「命」：イエス・キリストの命。また、イエスそのもの。

「光」：人を導く力、それを持つイエスそのもの。

* 13節「血」「肉の欲」「人の欲」「神」によって生まれるとは一体どういうことだろうか？

「血によって生まれる」：

「肉の欲によって生まれる」：

「人の欲によって生まれる」：

「神によって生まれる」：

・　15節『私の後から来られる方は、私より優れている。私よりも先におられたからである。』というのはどういうことか？

・　17節モーセを通して与えられた律法とは？

**【洗礼者ヨハネの証し】（19～28節）**

～語注～（2年生以上は知っているはず）

* 「メシア」
* 「エリヤ」
	+ 旧約聖書を代表するユダヤ人の預言者。旧約聖書を教典とするユダヤ教では最大の預言者とみなされ、旧約聖書には彼の死が記されていないため、1世紀のこの時代には素晴らしい預言者が出た時、「エリヤの再来ではないか！？」と民衆の間で噂になることが多かった。
* 「預」言者
* 「主」
* 「ファリサイ派」
* 「洗礼（バプテスマ）」
* 「主の道をまっすぐにせよ」（旧・イザヤ書40：3）とは、ここではどういうことを言いたいのか？